



な か は ら

学校教育目標：

心身ともに逞しく、主体的にねばり強く学び、思いやりのある児童の育成

文責 校長 池田 雄一郎

引き渡し訓練 ~災害はいつ起こるかわからない~

6月2日（金）午後、大雨が降ったという想定の下、引き渡し訓練を実施しました。事前に引き渡しカードを作成してもらい、カードに従って保護者の皆様にお子様を引き渡しました。ちょうど梅雨時期に重なり、この週は雨が続いていました。川の水量も増え、本番さながらの訓練となりました。保護者の皆様には、大変お世話になりました。

本校職員もマニュアルに従って、本当に災害が来たという意識で取り組みました。子どもたちの待機のさせ方、当日の急な変更への対応など改善すべきことが明確になりました。今後、早急にマニュアルを見直していきます。

災害は忘れた頃にやってくると言います。保護者の皆様におかれても、学校以外や土日で災害が発生した場合の避難場所や避難方法など日頃から何度も何度も確認していただければと思います。

「ありがとうのあふれる学校」

全校朝会より

6月5日（月）朝、全校朝会を行いました。先月の約束は「そろえる」。特に「下駄箱とトイレのスリッパをそろえる」ことを意識して学校生活を送ってほしいと話しました。私は、毎日、授業を見に行くついでに下駄箱とトイレを見て回っていたのですが、どの学年も以前に比べて、ずいぶんそろえられるようになりました。みなさんの成長を心からうれしく思います。特に3年生は、スリッパだけでなく、授業を受ける様子も変わってきました。すごく成長しました。

いよいよ6月に入り、1学期も半分過ぎました。今月は「心の絆を深める月間」です。「心の絆を深める」ためには、「思いやり」が大切だと思っており、子どもたちとは次のことを約束しました。それは「ありがとうがあふれる学校にする」ことです。

私は「ありがとう」と言われると、人のために行動してよかったと思い、心が温かくなり、「学校が楽しい」と思います。中原小でも、「ありがとう」という言葉がよく聞かれます。

中原小の一人一人が、1日1回人のために何かすると、「ありがとう」が1回返ってくることになります。中原小には300人の子どもたちがいるから、300回の「ありがとう」が聞こえることになります。1ヶ月では60000回です。

必ず、今よりも笑顔が増え、心から楽しい学校になると信じています。

読書名人に

読書に親しむ子どもたちの育成を目指し、読書スタンプラリーなど様々な取り組みを進めています。その中の一つに、中原小おすすめの本100冊（低・中・高学年）というものがあります。

先日、2年1組の子どもたちが20冊読んだことを校長室に報告に来てくれました。私から、20冊の中で一番心に残っている本を聞くと、理由をつけて話してくれました。

本を読む子は読解力、想像力だけでなく、語彙も豊富になり、発信力も向上するなどいいことばかりです。また、絵本などは内容によっては思いやる心も育ちます。是非、お子さんの頑張りに声をかけていただければと思います。

つばやま

毎日朝、校門前で登校指導をしています。元気な声であいさつをしてくれる子どもたち、うつむき元気のない子どもたちなど様々です。特に、元気のない子どもたちを見ると、何かあったのだろうか心配になります。

これからますます暑さが増していきます。一日を乗り切れるエネルギーを蓄えて学校に通ってほしいと願っています。